地域のニーズにこたえて
② 木古内町

北海道教育大学函館校　地域協働推進センター
センター長　齋　藤　征　人

2021年度に実施したSC巡回型サテライト・オフィスでの情報交換をきっかけに、木古内町産業経済課より「学生と協働した地域おこし協力隊活動」に関する協働のお申し入れが当センターにありました。これを受け、2022年度夏から「地域づくり支援実習」「地域政策ボランティア実習Ⅰ（国内）」など地域滞在型の実習（P52・５章 科目概要⑦にも詳述）を受け入れていただく運びとなりました。

木古内町の新たな魅力の発見には、町外に住む方や、特に若い視点での見方が必要であり、「町外出身者である地域おこし協力隊とともに町を見てほしい」、「木古内町で出来そうなことや、楽しいこと、SNSで映えることなどをともに考えられる学生とつながりたい」、「新たな町の魅力を探したり、それを広めたりしていく方法を学生と一緒に企画検討していきたい」との担当者の思いにこたえ、2022年度は2名の学生が実習に取り組みました。

木古内町での実習は、期間を8月下旬の5日間と9月下旬の5日間の2回に分けた、計10日間の分散型実習です。前半でインプットした学びを、後半の実習までの間に学生たちが咀嚼し、後半の実習でアウトプットするもので、最終日には町長へのプレゼンテーションも行われました。学生たちは、まちのために何が出来るか、学生自身の企画力や発想力が試されたと同時に、どうしてまちづくりが必要かといった根本的な問いについても考える時間となったようです。

こうした実習において学生たちを受け入れてくださる地域の方々は、「学生たちにとって意義あるプログラムを」と工夫する一方で、「どうしたら地域の側にも新たな価値が生まれ、未来に残せるのか」を考えてくださっています。同時に、地域の課題に向き合い格闘する学生たちの存在が、受け入れ地域の側にも改めて地域づくりについて考えるという「支援」をも提供していると感じます。このように、学生たちにとっても受け入れ地域にとってもwin-winの関係になるような実習体制づくりに、今後とも積極的に取り組んでまいります。

令和4年10月6日　函館新聞 2面

木古内の観光業務体験
函教大生、滞在型実習で

【木古内】道教育大函館校の学生2人が9月26日から、地域づくり支援実習の一環で町内に滞在しながら町役場で就業体験をした。

同実習は町の地域振興にかかわる仕事を体験し、地域振興に必要な能力を育成する滞在型のプログラム。木古内町は今回初めて学生を受け入れた。

参加したのは下妻菅渕さん（3年）、滝澤一輝さん（1年）の2人。産業経済課の地域おこし協力隊、長原汐里さんの指導を受けながら観光プロモーション業務を体験。サラキ岬など観光スポットを巡ったり、PR用の動画制作などに取り組んだ。

実習最終日の30日には、自身のアイデアや企画を鈴木慎也町長の前で発表した。

観光に興味があり応募した下妻さんは「町の魅力を発信する難しさを体感した。まちづくりの手法、ノウハウを学びたい」、滝澤さんは「自分の得意とする動画編集を生かせるのか不安はあったが、いろいろなアイデアが浮かんでいる。SNSを使った効果的な宣伝や情報発信の手法をこの実習で学びたい」と意欲を高めていた。（鈴木　潤）

長原さん（左）のアドバイスを受けながら動画制作に取り組む学生

実習風景